

# 慣用句

年

組

番

氏名

「慣用句」とは、昔から使われてきた言い回しで、二つ以上の言葉が組み合わさって、ひとまとまりの意味を表す言葉です。

山本さんの学級では、「慣用句」について学習しました。山本さんは、「耳」・「目」という言葉を用いた慣用句の意味と、その使い方をカードに書いています。カードの  に入る慣用句の意味としてふさわしいものを、あとの1~4の中からそれぞれ一つ選び、その番号を書きましよう。

【山本さんが書いたカード】

「耳にたこができる」

◆意味：何度も同じことを聞かさ  
れ、うんざりする。

◆使い方：この話は、耳にたこが  
できるほど聞いた。

「耳が痛い」

◆意味：

◆使い方：この話は、ぼくに  
とって耳が痛い。

「目を落とす」

◆意味：下を見る。

◆使い方：足元に目を落とす。

「目を配る」

◆意味：

◆使い方：一人一人に目を配る。

ア：

- 1 相手の話を一生けんめいに聞く。
- 2 相手の声が大きくて、聞いていられない。
- 3 自分のあやまちや弱みを言われ、聞くのがつらい。
- 4 自分のあやまちや弱みの改善策 かいぜんさく を言われ、ためになる。

イ：

- 1 物をさがす。
- 2 注意を向けてよく見る。
- 3 こっそり行動する。
- 4 人にやさしくする。

